

全国ネット通信

2012年を迎えて 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 理事長 長谷川 公一

新しい年を迎えました。2011年は、東日本大震災・福島原発事故や台風12号等による水害など、災害の多い1年でした。本年のみなさまのご多幸をお祈りいたします。

東日本大震災・福島原発事故を経験し、津波で家屋等が流され、一面更地と化した被災地を何度かたずね、津波被害にあった方や原発事故で避難を余儀なくされた方々のお話をうかがいますと、年賀状や松飾りを用意するといったことも、決してあたりまえのことではなく、新年を祝う、ささやかな幸福なのだあらためて思わずにはられません。仙台周辺では今なお、3月11日の発災時にどこで何をしていたのか、水汲みの苦勞、ガソリンを求めて並んだ苦勞等々、話が尽きることがありません。

2012年は、私たち全国ネットも発足3年目の年です。福島原発事故を契機とした電力不足の中で、家庭エコ診断事業などをつうじて培ってきた私たちの節電のノウハウが注目を集め、行政やマスメディアでもだいたい認知がひろがってまいりました。

2012年度は、京都議定書の第一約束期間の最終年度でもあります。南アフリカのダーバンで開催されたCOP17では、京都議定書の第二約束期間に日本は参加しないことになりました。この決断の得失をどう評価するかは難しい問題ですが、温暖化問題への関心が社会的に低下してしまうことを憂慮せずにはられません。

年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット会員各位におかれましては、平素から地球温暖化防止行政に対し、御理解と御協力及び、地域における地球温暖化防止活動に特段の御尽力をいただいております。深く感謝申し上げます。

昨年は、3月に東日本大震災があり、その後の原子力発電所事故等の影響で、多くの方が被災され、その後も避難生活が続くなど多くの方がご苦勞をされておりますことを、心よりお見舞い申し上げます。

また、震災や原子力事故等の影響で、各地で電力需要が逼迫し、節電の必要が生じましたが、こうした中で会員の皆様が様々な取組で地域の節電に寄与していただきましたことに深く敬意を表する次第です。

他方、地球温暖化は着実に進んでおります。昨年末に開催されたCOP17でも地球温暖化問題は人類が直面する共通

エネルギー政策の抜本的な見直しと低炭素社会づくりに向けた着実な前進、この2つの課題に向けて、私たちは地域をリードし、世論喚起に努めていかなければなりません。ボトムアップ型の“節電・節エネ・節CO2”の国民運動を推進していく必要があります。

幸い2月18・19日に開催する「低炭素杯2012」には、全国108団体から応募があり、厳正な書類審査の結果、41団体にプレゼンテーションをしていただくことになりました。ハイレベルでの激戦が予想されます。受賞団体に贈られるトロフィーは、アーティスト齊藤公太郎さんと被災地の宮城県石巻市立湊小学校6年児童との共同制作によるものです。

「低炭素杯2012」にお出かけいただき、被災地の子どもたちの思いを是非とも受け止めてください。



▲石巻市立湊小学校 ワークショップの様子
(写真：あきた地球環境会議 菊地格夫氏 提供)

環境省 地球環境局長 鈴木 正規

の課題であると認識され、新たな枠組みに向けての道筋などが合意されたところです。

我が国としても原子力事故の影響等を克服しつつ、温暖化対策に取り組むためには、従来以上の省エネや再生可能エネルギーの導入に取り組む必要があると考えております。

とりわけ、昨年の節電努力等をふりかえり、それぞれの地域で継続できる節電・省エネ等を新しいライフスタイルと位置づけ、定着させることは、身近な取組として極めて重要だと考えております。

人類共通の課題の克服に向け、環境省としても、皆様とともに歩みつつ、全力を挙げて取り組んで参る所存ですので、これまでも増して御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットのますますの御発展と皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

気候変動枠組条約第17回締約国会議 (COP17)

2011年11月28日から12月11日(当初の予定では12月9日)まで、南アフリカ・ダーバンで、気候変動枠組条約第17回締約国会議(COP17)、京都議定書第7回締約国会議(CMP7)が開催されました。

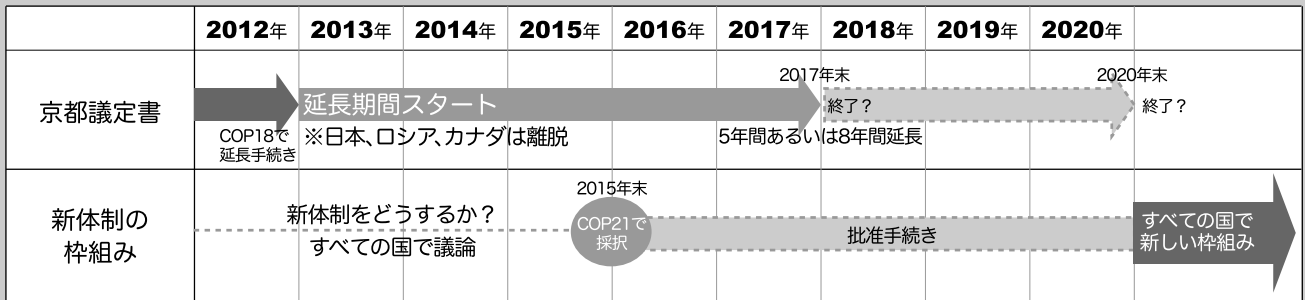
今回の会議では、京都議定書の約束期間が切れる2013年以降の枠組みの議論が焦点になっていました。結果的には京都議定書の枠組みを2013年以降も延長し、すべての国が参加する新体制の枠組みを2015年までにつくるとする「ダーバン合意」を採択し、閉幕しました。2013年以降の京都議定書第2約束期間からは日本は離脱するものの、すべての国が参加する新体制の枠組みへの議論に希望をつなぐことができる内容で決着しました。

国立環境研究所 社会環境システム研究センター 久保田 泉氏 撮影



京都議定書と新体制枠組みの今後

(ダーバン合意をもとに全国ネット作成)



全国ネットでは、全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA) ホームページにCOP17特設ページを開設し、国立環境研究所 社会環境システム研究センター 久保田 泉氏、宮城県地球温暖化防止活動推進センター(ストップ温暖化センターみやぎ)のご協力により、現地からのレポートを掲載しました。

久保田 泉氏からの現地レポート 「2011.12.11『何事も成功するまでは不可能に思えるものである』」より

すべての作業を終えて、COP17/CMP7が閉幕したのは、11日午前6時22分(現地時間)のことでした。予定されていた会期は、9日まででしたから、丸一日以上延長して交渉が続けられたこととなります。このような長い延長は、最終日に夜を徹して詰め込みの交渉が行われるのが恒例となっている温暖化COPの歴史の中でも初めてのことで、

ダーバン会合の成果としては、①すべての国が参加する温暖化対処のための枠組み交渉への道筋をつけたこと、②京都議定書第2約束期間の設定、③緑の気候基金、④カンクン合意の実施のための一連の決定の採択、の4つが挙げられます。中でも、重要な①と②の概要を紹介します。

- ①すべての国に適用される、2020年以降効力を発生し、実施される法的文書作成のプロセスの開始

遅くとも2015年までに、すべての国が参加する、温暖化対処のための法的合意を採択することになりました。「強化された行動のためのダーバン・プラットフォームに関する特別作業部会」を新たに設置し、同特別作業部会の下、この法的文書作成が行われます。

- ②京都議定書第2約束期間の設定

2013年1月1日から、京都議定書第2約束期間を設定することに合意しました。第2約束期間の長さについては、決着がつかず、来年決定されることになりました。第2約束期間に参加を表明する国々は、自国の中期目標を数値目標に変換し、2012年5月1日までに提出するよう促されています。森林吸収源に関するルール、京都メカニズムに関するルール、対象ガス等のルールも採択されました。



閉会会合直前に開催された、ストックテイキング会合の様子

今回は、何も合意できず、数か月後に再開会合を開催することになるのではないかと噂されました。閣僚級会合も長く続けられ、全体会合が始まったのは、10日の19時近くになってからでした。さらに、非公式協議ですべてがまとまったわけではなく、全体会合が始まってからも、様々な不満を表明する国がたくさんありました。それも情熱的に。

結局、合意に達し、早朝のプレナリー会場は、盛大な拍手に包まれました。もちろん、不十分な点も少なくありませんし、各国それぞれ不満に思っていることも大いにあるでしょう。今後の交渉に委ねられていることもたくさんあります。しかし、各国が様々な事情を抱える中、交渉決裂を避け、次のステップにつなげる合意ができたことは大きな成果と言ってよいと思います。

ヌコアナ＝マシャパネCOP17/CMP7議長は、「我々は、今日、共通の財産と地球の市民のために、非常に重要な一歩を踏み出した。私は、このダーバン会合で達成したことは、今日、将来を守るために、重要な役割を果たすと信じている」と述べました。

ダーバン会合開会の際に、フィゲレス条約事務局長が引用した、マンデラ元南ア大統領の言葉、「何事も成功するまでは不可能に思えるものである」(“It always seems impossible until it's done”)という言葉。2015年までに、私達はこの言葉をかみしめることができるでしょうか。

COP17特設ページはこちらから！(現地レポートも掲載中)

http://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop17/

川崎市センターは平成22年12月に、川崎市より地球温暖化防止活動推進センターに指定されました。推進員や市民が主体となって企画運営している川崎市センターですが、今回は12月の地球温暖化防止月間に行われたテーマ展示をはじめ、エコクラフトイベントの様子などを中心にお話をうかがいました。



▲ 圧巻の壁新聞展示！

地球温暖化防止月間行事 ▶▶▶ 「テーマ展示」と「自然のおくりものでリースづくり&クイズ」
 展示コーナーでは、夏休みの自由研究で市内の全小学生が参加し、壁新聞にまとめた高津区児童優秀作品の展示を中心に、体験型展示や温暖化+2°Cの海岸線マップなどを展示しました。
 また、12月17日(土)に実施したエコクラフト「自然素材のリース作り」では、沢山のつと木の実、モール、リボンなどを用意し、自由な発想で作成してもらいました。「私の知らない木の実から身の回りにある材料まで、様々な材料を選んで作ったのが楽しかった！」「かぼちゃの種も捨てないでまた装飾に使いたいです。」といった参加者の声をいただきました。



▲ エコクラフトの様子。幼児から大人(男性も)まで熱心に取り組みました。



竹井 斎 川崎市センター長に聞きました

現在、68名の地球温暖化防止推進員が委嘱されていますが、多くの方はセンターに指定される前から協議会として地域活動してきたエキスパートです。市民館の中にある展示コーナーやイベント企画などは推進員とセンタースタッフが月に1回テーマを設けて企画から展示まで行っています。今後は区ごとに推進員ネットワークが出来て、市民、事業者、区役所と連携して、川崎市全体の地球温暖化防止活動を盛り上げていくことを期待しています。

低炭素杯 2012

全国大会による決勝戦と特別シンポジウム

全国の活動団体（ファイナリスト）が一堂に！
 あなたも立ち会ってください！！
 低炭素活動日本一が決まります

入場無料
 来場者
 プレゼンテーション
 あります！

未来に向けて低炭素社会をつくるために、全国で様々な草の根の活動が展開されています。各地で活動する学校・有志・NPO・企業などの方々が、その優れた活動をプレゼンテーションする事を通じて、発信し、様々な方々と交流を深め、学び合い、連携の輪を広げていくのが、低炭素杯です。全国からエントリーされた多くの団体のうち、厳しい審査を経て選ばれた41団体から日本一を決定します。

日程：平成24年2月18日(土)、19日(日)
会場：東京ビッグサイト(国際会議場)



▲ 前回、低炭素杯2011の「低炭素杯」トロフィー

低炭素杯2012のトロフィーは…

東日本大震災の被災地・宮城県石巻市の小学6年生の子どもたちの涙と勇気を形にします！



2月18日(土)

司会：櫻田 彩子 (フリーアナウンサー)
 13:00~18:00 (開場12:00)
全国大会による決勝戦
ファイナリストによるプレゼンテーション
 日本全国から、低炭素社会づくり、地球温暖化防止に取り組む団体、企業が大集合。全国に広げていきたい低炭素社会に向けた取り組みを団体がプレゼンテーションします。

2月19日(日)

13:00~15:00
特別シンポジウム「ひと・まち・くらし・低炭素地域づくり」
基調講演
 テーマ：英国における地域の取り組み
 —Big Green Challenge—について
 Kirsten Bound氏
 英国NESTA 政策アドバイザー



パネルディスカッション
 コーディネーター：川北 秀人氏
 IHOE [人と組織と地球のための国際研究所]代表

パネリスト
 ・Kirsten Bound 氏 英国NESTA 政策アドバイザー
 ・宮原 美智子 氏 NPO法人 くまもと温暖化対策センター 理事長
 ・三浦 一博 氏 株式会社オプトロム 代表取締役 社長
 ・布施 孝尚 氏 宮城県登米市長
 ・山田 興一 氏 JST低炭素社会戦略センター 副センター長

15:15~16:00 **審査結果発表・表彰式**

優れた活動を行う団体、企業を表彰します

表彰は環境大臣賞としてグランプリ(1団体)、準グランプリ(各部門から各1団体、計4団体)を授与いたします。また、出場団体の中から、特別賞として、東日本大震災被災地域貢献活動賞、節電対策貢献活動賞などの授与も予定しています。

来場参加申込はインターネット・ファックスで！

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2012/> **低炭素杯** **検索**

エコプロダクツ2011に出展しました

全国ネットでは、2011年12月15日(木)～17(土)に東京ビッグサイトで行われた「エコプロダクツ2011」に出展しました。

ブースでは、うちエコ診断員が専用ソフトを用いて実施した「うちエコ診断体験コーナー」や、事業の背景や特徴の紹介・模擬診断などを行う「うちエコ診断プレゼンテーションコーナー」を展開し、多くの方にご来場いただきました。



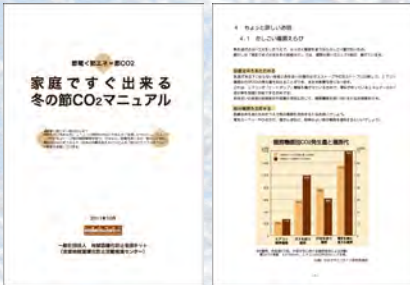
▲うちエコ診断プレゼンテーションコーナーの様子

節電<節エネ=節CO2 家庭ですぐ出来る 冬の節CO2マニュアルを作成しました

東日本大震災に伴う電力不足に対応するため、地球温暖化防止のための「節電<節エネ=節CO2～家庭ですぐ出来る冬の取組み21～」を公開しています。

暖房利用が高まる冬。エアコンの暖房利用などを抑える「節電」の代わりに、ガストーブや灯油ストーブ等の暖房機器を使う…ではなく、節電を節エネの一部として捉え、電気のみならずエネルギー全体の消費を抑えることによる「節CO2ライフスタイル」への転換を提案しています。

このたび、冬の取組み21をさらに詳しく解説した「冬の節CO2マニュアル」を作成しました。冬の節電とエネルギーとCO2に関する地域別の基礎知識から、家庭における効率のよい断熱方法や体を温める食べ物まで、冬の節エネアイデアが盛りだくさんです！



マニュアル冊子は全国ネットにて配布しておりますのでお気軽にお問合せください。また、JCCCAウェブサイトダウンロードもできます。

編集後記

↑にあるとおり、12月15～17日にエコプロダクツ2011に出展しました。うちエコ診断体験コーナーには100名を超えるご参加をいただき、順番待ちの時間にもパネル展示を熱心に見られていて、来場者の関心の高さを感じました。

出展企業の方もお話ができただけですが、仕事の枠を超えて、一人ひとりが何ができるのか、ということを考えていらっしゃる方が多く見受けられました。

「自社の社員に受けさせますよ！」と仰ってくださった社長さんや、さっそく受診申込みをくださった企業のCSR担当者の方もいらっしゃったようです。

未曾有の大震災に見舞われた年が終わり、迎えた2012年の干支は「辰」。

「辰年」には、「立つ、立ち上がる、復活する」という意味もあると耳にしました。一人の力は小さなものかもしれませんが、一人ひとりが繋がり、「絆」が「絆」へ変わっていくことで、立ち上がるチカラ、前を向いて歩いていくチカラが湧いてくる気がします。

「絆」を大切に。本年も「全国ネット」をよろしく願っています。

総務企画グループ 飯田 裕己

編集・発行

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-17 神田第三中央ビル5F

TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100 WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>

貸出教材をご活用ください

全国ネットでは、地球温暖化についてわかりやすく伝え、地球温暖化防止に向けた行動への一歩を踏み出すためのきっかけとなる参加型の学習教材「活動プログラム」等のツール教材の貸出を行っています。

- 貸出物：パネルセット31種類、タペストリー9種類、紙しばい、ゲーム、DVDなど
- 貸出料金：原則2週間まで
- 料金：無料（送料のみご負担ください）

かんてんぼうき E04 観天望気かるた

オススメ!

「アマガエルが鳴くと雨」「作物の実りが早ければ雪が早い」「飛行機雲のあとがすぐ消えたら晴れ、広がれば悪天候のきざし」など、今のような高度な天気予報がなかった時代、人々は身近な生きものの様子や自然の変化などを敏感に感じとって天気を予測していました。このことを「観天望気」と言います。このかるたは、日本に伝わる観天望気をかるたにした



ものです。子どもはもちろんのこと、大人の方も楽しみながら遊べます。日本人が培ってきた自然に愛する洞察力を感じられるでしょう。

◀観天望気かるた
(読み札・絵札 各2枚セット)

エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile
宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ちい散歩」レポーターほか、
低炭素杯2011での司会・進行など。



私も
賛助会員
です!

震災後、言葉について考える事が多くなりました。中でも私が、ホッとする言葉は「一緒だよ」です。私達の傍らにそっと寄り添ってくれる言葉だと思いませんか？
震災後を生きる私達、地球温暖化防止に向かう私達。一緒なら進める気がします。

この度も司会進行を努めさせて頂く低炭素杯2012でも「一緒に」の気持ちを込めて…。今回は嬉しい事に、例年、低炭素杯のカップ制作を手掛ける群馬在住のアーティスト齊藤公太郎さんの指導で、宮城県石巻市立湊小学校の6年生25名がカップの制作を手伝って下さることになりました。齊藤さんは合わせて6年生それぞれの卒業制作の指導にも尽力なさっています。

齊藤さん曰く、「所謂ガレキや避難生活で出たゴミを使って何かを作るのは子供たちにとって酷ではないか」という意見もありましたが、石巻の方々が語ってくれた、『子供たちが経験した厳しさの中にあるガレキが、誰かの役に立つというのは嬉しいことでもあるんだよ』という言葉に励まされて制作に向かっていきます。

一緒に！歩む低炭素杯2012になりそうです。どうぞ期待。



▲我が家からのスカイツリーと日の出です!

賛助会員
募集中!

一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの
活動をサポートしてください!

年会費：個人会員 1口 5,000円 (1口以上) 団体会員 1口 20,000円 (1口以上)

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

PRINTED WITH
SOYINK